

AsiaWave

 vol.166

2
韓国写真館
金丸知好
釜山

4
特集
韓国初の客船で
釜山クルーズ3日間体験記
金丸知好

13
Life&Culture
 孫秀萍
 日本の軍艦がついに中国上陸
 フォマン・愛
 結婚式へはシルクのクハヤで
 桂川唯香
 ホームステイがしたいだけ4
 中国タクヤ
 本「未婚還兵 六十二年目の証言」
 亞洲奈みづほ
 映画『チャウ・シンチーのコー
 ストバスター』
 「素足のクンフファイター」
 中川昌俊
 韓国 新政権早くも崩壊の兆し



チェンマイの寺「ドイステープ」の僧侶（桂川唯香撮影）

そうだ！ チェンマイのステープ山の頂上にある寺院「ワット・プラ・タート・ドイ・ステープ」に行こう。だって行くしかなかった。このときの私は気持ちがモヤモヤすっきりせず、自分ばかりが思い通りにいかないような気がして落ち込んだり、何に対しても前向きになれなかったり、でもそんなときだって人生にはある。だから神聖な寺で仏を拜めば気持ちが変わるのではないか。今のネガティブな自分を変えたい。そんな期待で長い階段を登ったら、ハアハア息がきれてぐったり疲れたもうヤダ。もっと低いところに建ててよ。気を取り直して仏様に手を合わせ、何だか気持ちがあつとす。そしてお寺をお散歩していたら、おつ、僧侶発見。いいね！ 紫色の花が咲いた木と、きれいなオレンジ色の袈裟を着た男の子たち。ザ・タイって感じが嬉しいね！ 疲れが吹っ飛ぶね！ さっきよりいい気分だぞ。気持ちって、すごく些細なことで変わるってことに気づかせてくれた紫とオレンジのコンビネーションにコップンカー！

（桂川唯香）

金丸知好の
韓国写真館
 釜山



博多港からフェリーに乗った。
 海峡を渡ること5時間半、
 目の前には釜山の街並が広がっていた。
 街中にあふれるハンゲル文字。
 ああ、ここは韓国なのだと思う。
 それでも通り抜ける湿っぽい空気
 眼に入るカタカナひらがなの違和感のなさに
 日本との近さをも感じてしまう。
 不幸な過去も、交流の盛んな時代も
 いずれにしろここが日本との出入り口だった。



インド・ネパール・アフガニスタン・バリなどなどからはるばるやってきた衣料品・織物・アクセサリ・楽器・CD・DVD、、、が皆様をお待ちしております



<http://www.harubaruya.com/>

180-0004 武蔵野市吉祥寺本町 1-8-3 コスモビル 2階

Phone & Fax. 0422-21-4790

渋谷アマリタ Phone & Fax. 03-3461-6563

吉祥寺別館 Phone & Fax 0422-22-2433

☆はるばる屋通信☆

**インド・バリからオリジナル春物衣料品
タイの衣料品 雑貨到着しました！！**

**8月2日(土)、3日の代々木公園における
BANGLA MELA (代々木公園) に参加します**

★ 軽井沢店は、7、8月は毎日営業です ★

ベリーダンス、インド舞踊のイベントに
商品を持って参加いたします。ご連絡ください。

ネットでのお買物もお楽しみください！



韓国初の客船で 釜山クルーズ3日間体験記

文・写真 金丸知好



大阪港に入ってきたパンスター・ハニー。日本初登場だ！

韓国初のクルーズ客船が大阪に

大阪と釜山を結ぶパンスタラーライン（本社・韓国釜山市）の新しいクルーズフェリー「パンスター・ハニー」が5月18日、大阪に初来日した。パンスタラー・ハニーは去年まで東日本フェリーの青函（青森〜函館）航路に就航していた「ほるす」をチャーター・改装したもので、この4月2日にデビュー。韓国史上初のクルーズ客船として釜山発着でもにも

韓国南海岸をめぐるクルーズを行っている。それが大阪にやってくるのは、大阪

釜山間に定期運航されている「パンスタラー・ドリーム」がドック入りするため、その代替としてパンスタラー・ハニーが一時的にフェリーとして就航することになったからである。韓国初のクルーズ客船とはいかなるものか？ それを確かめるべく、僕はその就航を記念した企画「パンスタラー・ハニーで行く韓国クルーズ3日間」（なんと総額1万9800円）に申し込んだ。

土曜の晩、新宿を22時半に出発する大阪行き「青春ドリーム中央号」に乗る。この深夜高速バスは往復で9310円（ネット割引）。新幹線が片道で1万4000円ほど。同じ高速バスでも3列シートなら片道8610円（往復1万5000円ちょっと）ということを考えて、恐ろしく安い。4列シート（トイレ付き）、毛布なし、だから当然か。

しかもこの日の大阪行きは満席。隣の座席の人と肘があたるくらいシートは狭い。窮屈なかつこうで一晩を過ごしつ、大阪へ移動。こんなしんどい思いを選択

したのは、韓国クルーズ3日間の大阪〜釜山往復の基本料金が1万9800円なのに、東京から出発地の大阪への往復旅費がそれを超えること、あるいはそれに近いことがどうしても許せなかったからである。

翌朝6時半すぎ、高速バスは無事に大阪駅に到着した。地下鉄を乗り継ぎコスモスクエア駅へ。駅を出た僕が向かったのはシーサイドコスモという大阪港に面した緑地公園。ここで、初来日するパンスタラー・ハニーを拝んでやろうというもくろみである。

12時半、見慣れぬカラーリングをした船体を持つ、やや小ぶりな客船が入港してきた。その姿を肉眼で見るのは初めてであったが、「あれはパンスタラー・ハニー！」と僕にも分かった。ハニーと名乗るだけあって、ハチミツ（HONEY）に向かって飛んでくるハチのイラストが描かれているのが特徴的。日本の国内フェリーではまずお目にかかれない斬新なカラーリングだ。パンスタラー・ハニーはゆつくりと僕の目の前を通り過ぎると、やがて右に舵を取る。そこには大阪国際フェリーターミナルがある。12時50分ごろ、パンスタラー・ハニーは着岸した。それを見届けた僕は、パンスタラー・ハニーを追うようにターミナルに向かって歩き出した。

シーサイドコスモから徒歩で10分足らず。「本当にここは大阪なん？」



出国手続きが済み、シャトルバスで乗船口へ。乗降は階段ばかりで、このバリアフリー時代にまったく逆行していると不評の大阪国際ターミナルだが、小ぶりのパンスター・ハニーの乗船はギャングウェイいらす。

と、初めてやってきた人ならおそらく誰もがそう思うであろう。きわめて何にもない場所に大阪国際フェリーターミナルはある。この日は日曜日ということ、ターミナル真向かいのただっ広い空き地ではフリーマーケットが行われており、ポップな音楽がBGMとして流されている。それがさううじて周囲に明るい雰囲気をもたらししていた。

乗船手続きは13時から30分の間に済ませて下さい、ということだったのでターミナルへと入る。パンスタラーのフェリーには大阪から3回乗船している僕だけに、入口からすでにここは大阪ではない別世界となっていることは承知している。入口には段ボール箱をいくつも積みあげ、船内に持ち込もうという人たちがたむろする。内部にはエントランスロビーを埋め尽くす韓国の人たちと、ひびきわたる韓国語の洪水。もはやここは通天閣や海遊館でイメージされる大阪ではない、韓国が始まっているのだ。



このパンスター・ハニーは最安値のスタンダードルームは2段ベッド4つの8人部屋。ただし、奥には衛星放送（韓国語放送のみ）が見られるくつろぎスペースとロッカールームさらに洗面台がある（トイレは室外）。やはりクルーズフェリーを意識したつくりなのだろう。



が、それにしてもカベに救命胴衣がずらっと吊るされているのはちょっとなあ。

ところが今回は到着が早かったためか、閑古鳥が鳴いている。いつもならチェックインカウンターまで韓国の人たちをかき分けるようにしてなんとかたどりつくのだが、この日は恐ろしくスムーズにカウンターに到達！ パスポートと3日間クルーズ乗船証をカウンターで提出し、大阪港湾使用料600円と燃油サーチャージ1000円を支払い、ボーディングチケットをもらってあっさりチケットチェック完了。しばらくは3階の展望フロアにあがってパンスター・ハニーを眺めていた。

出国手続き開始のアナウンスがあったので1階に下りると、いつのまにか韓国人の老若男女であふれていた。玄関には段ボールの山。いつものパンスターの出港風景になっていたので、ちょっとホッとしてみよう僕であった。すでにお年より軍団は手続きを待つ列の前方を占め、しんがりに大学生のグループ（といっても百人近い単位だが）。僕はさらにそのしんがりに。それでも過去3回の大阪

出港に比べると、人影が少ないなあ、というほど良い混み具合。僕以外は9割9分、大韓民国のパスポートを持っている。ひとりだけバックパッカー風の青年が日本のパスポートを片手にしていた。パンスター・ハニー初乗船は予想通り「完全アウェー」になりそうだ。

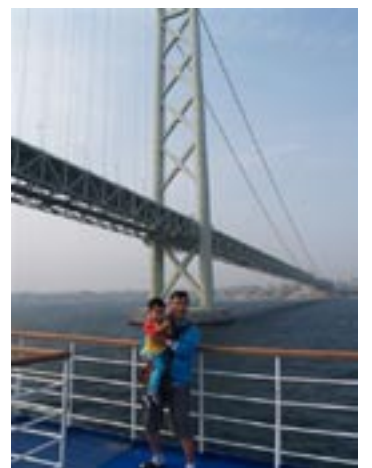
美人の韓国人スチュワーデスにチケットを提示すると、日本語で「一番上の階です」といわれた。エレベーターがないので重いスーツケースの人は大変だ……。幸い僕はリュックひとつ背負っているだけなので、指示されたスタンダードルーム7501へ。

僕は7501-2とチケットに手書きされた数字のベッドにリュックを置く。下段ベッドだ。すでに先客が3人来ていられるらしく、すべて下段ベッドに荷物が置かれていたが、みな船内探検に出かけたのであろう。その姿は見えない。

キャビンを出ると、見慣れた顔を発見！ さすらいの旅人Yさんである。実は数週間前、僕は知人のYさんを「パン



大阪港を出港したパンスター・ハニー。



スタンダードルーム7501でYさん&僕のルームメイトの韓国入父子。お父さんは明石海峡大橋をバックに子どもとの記念撮影に余念がない。

したのでと思われる。

クルーズ前半（大阪→釜山）

スター・ハニーの韓国クルーズ3日間いかがですか？とお誘いした。このときは「日程的に難しいかも」という返事だったが、それから2週間後、やはり船旅好きの血が騒いだのである。用事を無理やりなげうってこのクルーズに申し込んだという。実はこの3日間クルーズ、最少催行人員が2名となっており、僕だけの単独参加ではツアーが成立しなかった。しかもこれだけお得なツアーにも関わらず、平日にさしかかるといふこと、告知がかなり直前だったということもあり、参加者は2名のみ。Yさんの緊急参加により1万9800円の格安クルーズも実現したというわけである。このあとはYさんとともに韓国初のクルーズフェリーの船内探検に出かけた（画像を参照のこと）。

大阪港を出港したパンスター・ハニーであったが、天気晴朗なれども浪高し。日本列島に接近中の台風4号ハリロンの影響か。6F・Aデッキの船首にある「デッキ・サンライズ」から海を臨むけれども、六甲の山並も神戸空港もほとんど見えないほどにモヤっている。予定されていた韓国クルーズ3日間参加者（オンリー2名ですが）のためのブリッジツアーも復路に延期された。とてつもなく風が強いため、そうそうに船内に退避。

船内探検を楽しんでいたら、パンスター・ハニーが動き出した。なんと定刻よりも30分も早い14時40分に大阪を出港しているではないか！ すべての乗客（この航海は294名だとか）とすべてのコナテナの乗船が終わったので早めに出発

17時からレセプションにて両替サービス開始のアナウンス。韓国人大学生が日本本からウォンへの両替のために列をつくる。レセプションの横に本日のレートが表示される。韓国の釜山銀行と同じレートでの両替だとか。僕は5000円を4万9200ウォンに換える。ちなみに両替が行われるのは大阪→釜山のときだけで、大阪行きの際は実施されないと聞いた。

播磨灘を過ぎると、あれほど強かった風もかなりおさまってきた。小豆島が見えてきたのを手始めに、右手に瀬戸内の島々、左手に四国を眺める黄昏時の備讃諸島クルーズがスタート。外ではこのような素晴らしい風景が広がっているのだが、デッキに出てくる人影はまばら。実は団体様からレストランで夕食が始まっている、部屋順に韓国語のみのアナウンスで案内されていた。ちなみに団体はビュッフェスタイルの夕食だ。



クルーズ時のみ使用と思われるVIP専用レストラン「チェリーブロッサム」(日本語では桜)。

19時、ようやく個人客の夕食の案内が始まる。レストラン「ムゲンファ」(むくげ=韓国の国花)では韓国入スタワードスのほかに、フリーピン入スタワードスカイがいくつとある。営業時間は30分間とかなり短い。夕食メニューはうどん定食8000ウォン/石焼ビビンバ10000ウォン/とんかつ定食10000ウォン/ブルコギ定食12000ウォンの4つの中から選択するシステム。僕は石焼ビビンバを選んだ。



チェリーブロッサムのお隣にあったミニバー。クルーズサービス時のみ営業とのこと。今

お隣のテーブルには京都からやってきたという日本人シニア夫妻。往復パンスタリーのフェリーに乗って韓国に行くこと両手の指を超えるというほどのヘビーユーザー。Yさんと僕のように「パンスタリー・ハニーに乗りよきた」お客さんではなく、この日に出発したらまたまハニーの初就航にあつたラッキーな方々である。

と、思いきやお父さんのほうは不満たらたら。

「ジュニアスイートにはバスタブがなくシャワーのみ。他の船にはあつたのに」(※バスタブがあるのはロイヤルスイートなどごく一部のキャビンに限られる)で、僕たちが釜山とんぼ返りの3日間クルーズの客だと聞くと

「前にもそういう人たちがあつたなあ」

ああ、パンスタリーフェリーの3日間クルーズに参加する粋な旅人は我々だけではなかつたのだ。しかしこのお父さん、

「それにしてもこんな旅は意味がないなあ」

とバツサリ。しかも3回も繰り返して。しかもそれが人を見下した態度ではなく、純粹に驚いていることが明らかに取れたので我々も腹が立つよりも苦笑いするしかない。そんなことをしているうちに船は瀬戸大橋をくぐる。

レストランの営業が終わ

ると、スタッフが会場設営。20時から行われるイベントのためだ。この日は韓国人男性スタッフがMCをつとめる韓国語オンリーのカラオケ選手権大会。最初に歌つたのは相撲取りのように太った若い韓国人男性。その見事な体型にもビックリしたが、これがプロの歌手顔負けのとてもない歌唱力の持主で、2度驚かされた。韓国人のカラオケ好きは遺憾なく発揮され、船尾にあるカラオケルーム2つからも若者たちの歌声が響いていた。

そのうち来島海峡大橋が近づいてきたので、Yさんとともにオペレーターにデッキへあがる。まもなく左手に今治市の夜景がぱつと広がる。ランドマークの今治国際ホテルはもちろん、今治城の天守閣のライトアップもはつきり肉眼で確認できた。時計を見ればまだ21時半である。

来島海峡大橋をくぐり終えるのを見届け、5F・Bデッキの船首にあるカフェ「パラダイス」に。船首から光が漏れると安全航行の妨げになるのでカーテンで遮光する。これは日本のフェリーでは常識なのだが、パンスタリー・ハニーではそんなこと「ケンチャナヨ！」(構わない、気にするな)。

それにしても白砂のビーチをイメージしたのだから、海を眼前に臨むチェアの下には白砂のようなものが敷き詰められている。好天の日中の航海のとき、ここでカクテル傾けながらソファにもたれ、といった豊かなクルーズライフが満

喫できそう。Yさんは赤ワイン、僕はドラフト生ビール(いずれも5000ウォン)を注文して、左に高縄半島の灯火をながめつつ談笑。

そのうちハードな4列シートは深夜高速バス旅での睡眠不足、そして船内を歩き回った疲れがどつと出てきた。23時半にはスタンダードルームに戻って爆睡。

パンスタリー・ハニー2日目の朝は雨。周囲は見渡す限り海。関門海峡を越えて、玄界灘の真つ只中に入ららしい。台風の影響もあつて、天気予報もあまり芳しくなかつたので、この空模様はある程度覚悟していたが、せつかくのクルーズに文字通り水を差したことは否めない。

レセプションに行くと、釜山入港1時半となつていた。おかしいな。大阪出港は30分早く、来島海峡の通過も1時間ほど早かつたのに、眠っている間に刻立よりも1時間半遅れになつてしまった。台風の影響を受けているのかも。

9時20分、左舷に対馬の島影が。再びレセプションに行くと、パンスタリーのクルーズ担当の方がYさんとお話していた。その背後には、入港が遅れてヒマをもてあましてソファにゴロゴロ寝そべっている韓国人大学生たちがいる。クルーズ担当者は若者たちを一瞥して言う。

「この船はクルーズ用に造られた素晴らしいものです。だから本当はフェリーに転用するのはあまり乗り気がしませ

★パンスター・ハニー船内はこうなっている！



エントランスから見上げるとこんな感じ。



エントランスホールを見下ろす3層の吹き抜け。



6 FのAデッキ。船尾にはジャクジーがあり。



シャワー設備も。



ジャクジーに面してオープンバー「サンフラワー」がある。ただし、クルーズのときみのみの営業。今回はフェリーサービスのためオープンしていない。バーベキューセットもフェリーサービスの際には使用しないので、デッキで潮風を受けながら置かれていたのがなんともさびしげに見えた。



サンフラワーのメニューを取り出して、コスト調査。
 ・生ビール(500CC)5000ウォン=約500円
 ・韓国産ビール「H I T E」ピンビール5000ウォン
 ・清酒(ソジュ)4000ウォン



オープンバーを見渡すシート。背後にはカラオケルーム(2つ)。



韓国のフェリーでは珍しい船内コンビニ。「ハニースタ25」は24時間営業。



売っているものもこの通り韓国内のコンビニそのもの。価格も韓国内と変わらないようだ。表示はすべてウォンだが、日本円も通じます。



コンビニの真向かいにあるのが免税店「ハニーハント」。コンビニが常に賑わっていたのに対して、こちらはクルーズと違ってほとんど客がいない。スタッフもヒマそうであった。



コンビニの横にある「ビューティー・ハニー」。洋上美容室か？クルーズのみの使用だろう。



船尾にあるのがハングル文字を解读すると「ゴルフ場」。英語名はインフィニティ・ヤード。ちょっとしたミニゴルフ場&スポーツデッキとして使用されている。



ゴミは分別収集。
ハングル文字・英文・日本語の3ヶ国語表示。



レストラン横のプロムナードは「スターボード・バー」。
ミニバーが営業していないフェリー期間中は単なるプロムナードデッキ。



これがパンスター・ハニー名物の「パンスター・キャンプ」入り口。青函連絡船「ほるす」の時代には2等座敷だったのだろうか？かつての座敷の名残を残すスペースにモンゴルのゲルのようなテントがいくつかあって、そのなかでも眠れるという趣向を凝らしている。すでに韓国人の若者たちが川の字になって横になっており、退屈しのぎにプロレス技を友人にかけているヤツもいた。



お母さんも体を鍛えています。



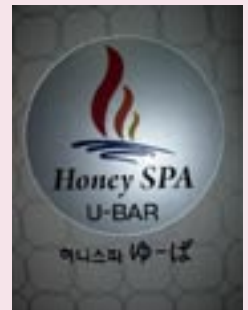
ランニングマシンで太り気味の体をしぼるのもよし。



3つのPCがあるが、キーボードはこのようにハングル文字仕様。30分で2000ウォンの使用料金がかかる。



日本ではネットができるフェリーはまだ少数派。パンスター・ハニーではレセプションのそばに「infob@r」というインターネットゾーンが。



キャンプを出たところにあるのが「ハニー・スパ」。スパとは名乗っているが、早い話が浴場。あまり大きくないうえに、窓なし。韓国人の大好きなサウナもない。U-BAR（ゆーば）とは湯バーということかな？



パンスター・ハニーの屋上。つまりオペレーションデッキは開放されている。眺望絶佳。



Yさんや僕の7501号室があるスタンダードクラスのある7Fブリッジデッキ。スタンダードクラスのキャabinは全部で6つ。スタンダードクラスに隣接してWHI TE、GOLDというロイヤルスイート/バルコニースイートルームがある。ちなみに今回の3日間クルーズでは往復ともに韓国人スチュワーデスのためのキャbinとなっていた。



船首にあるカフェ「パラダイス」のチェアー

ん。実は大学生グループがはしゃいでテ
ーブル2つをこわしてしまいました。お
客さんだから強くは言えないのですが、
クルーズ担当としましては、心が痛みま
す」

「若者のしつけに関しては韓国のほう
が厳しいイメージがあるんだけど……」
とYさん。担当者の方は「いえ、これ
は国の教育よりも家庭のしつけの問題で
すね」とため息。韓国では親が若者や子
どもに対して非常に甘いところがあるよ
うだが、理由があるようだ。それについ
てはのちほど。

そういえば韓国の若者たちが船内でも
ころかまわすバスバとタバコを吸って
いたのが気になった。この船、日本のフ
エリーのトレンドとなっている「全面禁
煙／喫煙者は喫煙ルームへ」ということ
がまったくない。そもそも喫煙室がない。
それを造る理由がない。みんなそこかし
こで吸うからだ。

まもなくエントランスホールのソファ
が片付けられ下船の列のためのロープが
張られる。

パックツアー、会員、個人旅行などグ
ループごとに分類するのだ。僕たちは個
人旅行グループになるらしい。釜山が近
づいているのかな、と思ってオブザーベ
ーションデッキにあがると、いつのまに
か雨は上がり、釜山港がもうすぐのこ
ろにあった。さつき対馬を見たばかりな
のに。

11時半、パンスター・ハニーは釜山に

到着。どうせ4時間足らずのちにはこの
船に戻ってくるのだが、法律で荷物を船
内に置いておくことはできない。そこで
パッキングをして、リュックをかついで
下船。入国審査で「入国カードに泊まる
ホテルを記入して下さい」と係員から日
本語で言われたので、「今日船で出国す
るんですけど」と言うと、なぜか納得さ
れてそれでOK。税関審査もあつという
間に終わり、晴れて韓国に入国。

ハーフタイム@釜山

サンスターライン、とカタカナで書か
れた紙を持った女性ガイドが立ってい
る。この人が我々のガイドだな。名乗り
を挙げると、

「今日は船が遅れたんですね。3日間
クルーズのお客さんは時間がありません
」

と妙にご機嫌斜めである。なにしろ入
港が1時間半遅れたうえ、3日間クル
ーズの参加者の現地滞在時間はただでさえ
少ない。

「14時までにあなたたちをターミナル
につれてこなければなりません」

時間がなくて、ちょっとテンパってい
るようだが船が遅れたのは僕たちのせい
ではないんだ……。:

このあとは駆け足で釜山をめぐる。タ
クシーを拾って龍頭山公園へ。ツアー参
加者のための専用バスのような立派なも
のではないからだ。韓国初上陸のYさんは
公園の入口で写真を撮っただけ。ちょっ

と気の毒。

公園から街に降りる坂道でもガイドは
ぶつぶつ。

「どうして3日間クルーズにしたんで
すか。せめて1泊すればもつといういろ
楽しめるのに」

「今回はパンスター・ハニーという新
しい船ができたので、それに乗りたかつ
たんですよ」と僕。

「えっ、じゃあ船に乗りに来たんです
か？」

ガイドはあきれた口調で、それつきり
ブスツとしてしまう。

龍頭山公園から昼食のレストランまで
またタクシーで。国鉄釜山駅の前を猛ス
ピードで駆け抜けてレストランへ。正午
過ぎということもあって、近所のオフイ
スで働く社員やOLたちがランチを取っ
ていた。

我々は海鮮鍋。韓国のHIT E（ハイ
ト）ビールもビンで2つ注文。釜山名物
ということもあり美味！ おっと、食べ
る前にガイドに「何時まで食べればいい
んですか？」と確認しておかないと、ま
すます機嫌が悪くなるぞ。

ところが彼女、「大丈夫です」と急に
笑顔。「食事くらいはゆっくり食べてい
ただきたいですから」とも。その言葉に
甘えて、日本語の達者な店員が勧めてき
たパジョン（韓国チヂミ）も追加。店員
の言葉にウソはなく、実に美味しいチヂ
ミであった。このクルーズに出かける前、
ある知人に

「釜山にランチだけしに行くんですね」
とあきれられたが、たしかに。なんて
ゼイタクな旅行だろう！ いいランチチ
イムであった。

店を出るとさつきまではなかった立派
なバンが店の前に待機しており、これに
乗ってロッテ免税店に直行！ Yさんは
キムチを購入。僕はもともとシヨッピン
グの趣味はないので、ウインドウショッ
ピングのみ。

ロッテ免税店を出ると、さつきの送迎
バンは姿を消しており、またまた乱暴な
運転の韓国タクシーに身をゆだね、ハラ
ハラドキドキのドライブングを楽しみつ
つターミナルに。13時40分到着。ターミ
ナルを出発してから2時間も経過して
いない。ガイドは我々から釜山港湾使
用税3200ウォン+燃油サーチャージ
10000ウォン&パスポートをそれぞれぞ
れ受け取ると、パンスターラインの窓口
でさつきとチエックインの手続きを済ま
せる。そして別れ際に

「今回はパンスターの都合で時間が短
くなってしまうましたが、次回はゆっく



今回の釜山旅行最大の楽しみ・
海鮮鍋。マシイッソヨ（美味し
かった）！

り釜山を楽しんでください」

と言って、エスカレーターを降りていってしまっただ。これで僕にとつてはもう両手の指では足りなくなつた釜山訪問、そしてYさんにとつては初の韓国訪問は疾風怒濤のごとくエンド。でも、美味しい韓国料理も食べられてお土産も買えたので、まあいいか、という感じ。ガイドブックも会話帳も持たない海外旅行はこれで終了。

ちょうど高速船ビートル(釜山→博多)の出発時刻と重なつており、出国審査入口は黒山の人だかり。日本人観光客もかなり見かけたが、誰もがビートルのチケットを持っていて、パンスターのチケットを握っているのはYさん&僕コンビくらいであった。

15時20分、パンスター・ハニーは大阪に向けて釜山を出港する。入港は定刻の1時間半遅れ(11時半)だったが、出港はわずか10分遅れ。サッカーにたとえると、この3日間クルーズは大阪から釜山までがファーストハーフ(前半)、釜山から大阪までがセカンドハーフ(後半)、そして釜山での上陸時間がハーフタイムとなるであろう。実質2時間のあつというまのハーフタイム@釜山だった……。

クルーズ後半(釜山→大阪)

前半は300人足らずの乗船者ということで、船内にも空間的なゆとりが感じられたが、後半はそういうわけには行かなかった。レセプションからの情報によ

ると490人が乗船。前半は8人部屋のスタンダードルームを4人、しかも上段ベッドを利用しないというゆとりある使用ができたが、後半はすべてのベッドが埋まつてしまつた。そして490人のうち約400人が韓国の高校生たちによる修学旅行だということだ。

「こりゃあにぎやかな船内になりそうですね」

同室となつた日本人Nさんは苦笑いしながら言つた。大阪在住のNさんは韓国で仕事をする機会が多く、その足にパンスターのフェリーを利用するといういわば「パンスターのベテラン」である。今回も韓国で仕事があり、帰路がたまたまパンスター・ハニーとなつた。

遠ざかりゆく釜山港を見つめる高校生たちは男の子ばかりの集団である。後で述べるように、船内ではいろいろ騒ぎを起す彼らだが、見た目に「こりゃあ悪そうだな」という子はひとりもおらず、どちらかといえばごくふつうの韓国の高校生ばかりであつた。

さて、さすらいの旅人Yさん&僕の3日間クルーズコンビはブリッジツアーの申し込みにレセプションへ。本来であつたら大阪出港直後に行われるはずのものであつたが、白く濃いモヤがかかつていたこともあり中止となつた。ところがこの復路もブリッジツアーは難しいという。

「えー、行きもダメだったじゃん。ツアーの日程表には往路がダメだったら復

路に実施しますつて書いてあるよ」

Yさんが「どうしてもブリッジに行きたい!」という勢いで食い下がると、前言が一転ひるがえりOKとなつた。しかも、いまから行きましょう、という急転直下ぶり。

というわけでブリッジツアーがスタート。韓国人キャプテンは日本語がたんのうで我々との会話もすべて日本語で行われた。なかなか気さくな方であつた。その間に女性の三等航海士がきびきびとブリッジを歩き回る。日本のフェリーでもブリッジを見学したことが何度もあるけれど、女性の航海士にお会いしたことはなかつた。その彼女が前方を指差し「ニューかめりあ」と言う。まもなく博多と釜山を結ぶフェリー「ニューかめりあ」の姿が右舷に現われる。メガネをかけているのに、いい視力をお持ちだ。潜水艦が浮かび上がってきたところも見えたそうだが、残念ながら僕にはまったく見えず。ブリッジでの談笑は30分にもおよんだ。お忙しいところキャプテンをはじめブリッジの皆様には感謝です。

念願のブリッジツアーがかない、我々は船首のカフェ「パラダイス」へ。すでに10名以上の男女がいた。このグループは修学旅行の引率の先生たち

で、リーダーと思しき男性教師がなにやら口上を述べると、「うのために」という韓国語の唱和とともに生ビールの乾杯。これが何回も繰り返される。パラダイスの上は前面に海が広がるサンライズ・デッキとなつているが、高校生たちがその上をバタバタと駆け巡っている。しかし酒盛りを始めてしまつた先生たちはまったく注意しないどころか、ますます酒宴が盛り上がっていく。しびれを切らしたカフェのスタッフがデッキに上がつて高校生たちに注意して、上のドタバタは収まつた。

この高校生の一団、乗船とともに船内にあるコンビニでは大量に缶ビールを買つていった。前半の大学生グループはところかまわず船内でスパスパ喫煙していたが、さすがに高校生はそんなシーンは見かけなかつた。が、彼らはとにかく缶ビールを飲みまくつている。最初はお客さんだからと売つていたコンビニのスタッフもあまりにも目に余るようになってきたので、ついにプチ切れ、



パンスター・ハニーのブリッジ



船首カフェ「パラダイス」全景。船首の席にいる集団が引率の先生たち。



彼らのほとんどが右耳の耳たぶの後ろに丸いシールを貼っている。高校生たちだけではなく「ハナツアー」（神戸・奈良・大阪・京都をめぐる）の参加者もだいたいがこのようにしていた。船酔いへの防止策として韓国ではメジャーな方法らしい。

人間形成とはほど遠い場所に思えるが、立派な人間形成とはほど遠い場所

「軍隊にいたときは毎日、理不尽な理由で何回も殴られたよ」

「軍隊にいたときは毎日、理不尽な理由で何回も殴られたよ」と言っていたことを考えると、立派な人間形成とはほど遠い場所に思えるが、

Yさん、Nさん、そして僕の日本人トリオはパラダイスで生ビールを飲んでゆったり過ごし、19時にはそのままレストランへ流れる。夕食後、20時からはレストランでイベントが始まる。前半クルーズに比べると客の出足はよく、開演前からテーブルは満席に。まずはカジノのディーラーの女性が熱唱。その後はサックス



クルーズフェリーと名乗るだけあって、船内イベントもある。ラストのサックス演奏はオーディエンスが少ないながらも大盛り上がり!

韓国クルーズもいよいよ最終日。目がさめたのは6時50分。オプザーベーションデッキに上がってみると、瀬戸大橋が目の前に近づいてきている。7時ごろ、瀬戸大橋を通過。高校生たちなど韓国乗客もデッキに飛び出して、瀬戸大橋を撮影し、瀬戸内を行き交う無数の船を眺めていた。

「お前ら高校生だろ！ お前らに売る酒はねえ!!」

と怒鳴ってコンビニから締め出した模様。途中からパラダイスにやってきた韓国通のNさんは

「韓国の先生は生徒には甘いですね。その背景には徴兵制度があるのです。どうせ軍隊で厳しくしつけられるのだからそれまでは自由奔放にやらせよう。そういう空気が先生たちにもあるんですね」

と言う。では軍隊に行ったら誰もが人間的に立派になるかといえば

「人間的にいい方向に変わる人もいれば軍隊を離れたとたんにもとに戻ってしまう人も多い」（Nさん）

軍隊に入ればそのまま人間教育になる、とはならないようだ。僕の知人の韓国人が

「軍隊にいたときは毎日、理不尽な理由で何回も殴られたよ」

と言っていたことを考えると、立派な人間形成とはほど遠い場所に思えるが、

……。

僕は国内のフェリーで何度か日本の修学旅行生と乗り合わせたことがある。生徒たちは夜になるとデッキに出ることは禁じられ、先生たちがデッキへの出入り口の前のソファに座って寝ずの番をしていた学校もあった。もちろん売店でのアルコールの購入などご法度であり、男女のキャビンも完全に隔離されていた。生徒たちが他の乗客に迷惑をかけるくらい騒いだりしようものなら先生たちに厳しく叱られるような雰囲気だった。もちろん先生たちが生徒たちをほうっておいて酒盛り、なんてことはない。

そんな日本の修学旅行を見てきているので今回の韓国の修学旅行はある意味、カルチャーショックであった。韓国の先生たちも修学旅行は羽を伸ばせる機会ととらえているようで、生徒の注意は船のスタッフに任せてまだ日没前から酒を飲むのも当たり前。日本の修学旅行のようなピリピリした雰囲気とは全く対極にある。ただ、先生たちの酒盛りはそんなに長くは続かず、レストランでの夕食時までに撤収してしまった。

ス演奏。ところが、その演奏途中で高校生たちはゾロゾロとレストランを出て行ってしまふ。どうも彼らには面白くないイベントだったようだ。せっかくの名演奏も終わったあとは、レストランに参加のガラに。残ったのは団体ツアーに参加のおばさんたちと若い女性グループ。

でも、騒がしい一団がいなくなつてかえってイベントは一体感に包まれる。次はスパニッシュギターの渋い演奏。そして再びサックス。その演奏に合わせておばさんたちは踊りだし、若い女性たちも手拍子。結果的にはいい盛り上がりで大団円。

イベントが終わると僕はオプザーベーションデッキへ。そろそろ関門海峡を通過する時間だからだ。イベントでは途中で大量離脱してしまった高校生たちもゾロゾロとデッキへ集まってくる。ジャグジーのあるデッキで酒盛りをしていた韓国人おじさんたちも、北九州の夜景が見え始めるとデジカメで撮影に没頭。Yさ

んは旧友が下関にいらつしやるというこゝとで「今、お前の家のそばを船で通るぞ」と電話している。

右手に小倉や門司の夜景、左手には闇に包まれた巖流島そしてぼう々と浮かぶ下関市の海峡夢タワー。やがて下関市の水族館・海響館と唐戸市場、そしてライトアップされた赤間神宮の楼門。右には門司港レトロ地区。海峡ドラマシッップのすぐそばには6月21日に新たに開設される日韓フェリー航路・モジライン（門司・釜山）のターミナルが建設中のはずだが、夜なのでよく見えない。そして関門海峡大橋をくぐるとき、韓国人高校生からまるで新年のカウントダウンのときのような歓声が沸き起こった。

この日の天気予報はきわめて芳しくなかったはずだが、台風4号ハリオンが先を急いだのだろうか、空にはまあるいお月様がぼつかりと浮かぶ。台風のないお月様がぼつかりと浮かぶ。台風のないクルーズはここまで実に穏やかで、韓国人乗客の多くが耳の後ろに貼っていたシールも今回はどうやら無用のようである。



関門海峡大橋をくぐる瞬間。これもこのクルーズの一大イベント



クルーズ最終日は瀬戸大橋から始まった

レセプションの情報によると大阪入港は定時よりも2時間遅れの正午の予定。クルーズを少しでも長く楽しみたいYさんと僕にとってはありがたいけれど、きょうから大阪で仕事がある同室のNさんは、慌てて仕事先に電話をかけたままだった。

まもなく大阪港。荷物をまとめてエントランスロビーへ。せっかちな韓国人おばさんたちは明石海峡大橋や大阪港にもめもくれず、すでに並んでいる。本日の日本人乗客は4名。

Yさん、Nさん、やはり同室だった青年Tくん（翌日は豪州に行くという旅人だった）そして僕。同室だった日本ツアー参加者の韓国人のおじいさんが我々のところにやってきて「今回はご一緒できてよかった。ありがとう」とあいさつに。もうひとりの日本語の達者なおじいさんも「楽しんでくるよ」と声をかけてきた。船旅っていいなあ、と思った瞬間だ。

3日間同じ船にほぼ乗りっぱなしだったのでレセプションのスタッフワデスや

男性スタッフ、そしてフィリピン人クルーともすっかり顔見知りになり、すっかり仲良くなってしまった。

「今度はクルーズ（※1）にも乗って下さい」

「金沢に行くフェリー（※2）にも是非乗って下さい」

と言われた。なんだか名残惜しいね。

パンスター・ハニーは12時に大阪に入港した。そしてまずは日本人4名から下船。こうして3日間クルーズは幕を閉じる。

※1 大阪発着パンスター・ハニーの韓国クルーズが4万8000円より

パンスターライン日本総代理店である株式会社サンスターラインではクルーズ船「パンスター・ハニー」を利用したクルーズ商品を販売する。大阪発着となり、大阪⇄釜山は定期航路（今回僕が体験した船旅）に、釜山発着で行われている3泊4日の韓国国内クルーズを組み合わせた旅行企画だ。

出発日 8月21日、10月9日、11月13日

1日目 大阪15時10分発 パンスターフェリーにて釜山へ

2日目 釜山着後、釜山市内観光と昼食 釜山港よりクルーズ乗船

3日目 全羅南道ワンド港9時入港 フリータイム 18時 出港

4日目 済州島 9時入港 フリータイム 18時 出港

5日目 釜山着後、海雲台パラダイス免税店ショッピング後、海東龍宮寺の観光と昼食 釜山港15時10分発 パンスターフェリーにて帰国の途へ

6日目 大阪港10時入港 通関後、解散

キャビンはスタンダードC（2等）利用48,000～

デラックス（洋室ツイン）利用127,000円

◆食事8回

*5日目は追加料金で釜山ホテル宿泊や帰国便変更も可能

◆問い合わせ・申し込み

株式会社サンスターライン旅行営業企画部 電話受付時間06-6271-3258（平日9時～18時）

※2 釜山～金沢航路が6月16日にオープン!

この6月、石川県の金沢港にとって初の定期フェリー航路が開設された。航路を開設するのは「東日本フェリー」（本社・函館市）で、委託を受けた韓国の海運会社「パンスターラインドットコム」が運航する。

運航スケジュール

金沢港 毎週、水曜日15時発_翌日 釜山港12時着

釜山港 毎週、月曜日13時発_翌日 金沢港10時着

週1便で就航船舶パンスター・ハニー（14,036トン、定員514名）

◆運賃

バルコニー 25,000円（窓側・洋室シャワートイレ付き）

ヨット 23,000円（窓側・洋室シャワートイレ付き）

ファミリー 20,000円（窓側・オンドル室・洗面台付き）

プレミアム 17,000円（内側・オンドル室・洗面台付き）

スタンダードA 16,000円（内側・2等寝台）

※別途、港湾施設利用料金、燃油特別付加運賃が必要

問い合わせ、予約は

（金沢発）東日本フェリー外航部 076-268-7155

（釜山発）パンスターライン001-82-1577-9996日本語での受付もOK

なお、10月には金沢航路を釜山港から約50キロ西方の馬山港（韓国・馬山市）にまで延伸する予定で、貨物輸送も本格化する。また東日本フェリーは天候が荒れる冬季に、使用する船舶を大型に切り替える検討にも入ったと報道されている。揺れを抑え、運航の安全を確保するため、当面使用するパンスター・ハニーから、排水量で2倍以上の3万トン級フェリーの投入を計画しているが、運賃などは現状維持の見込みだ。



戻ってきました明石海峡大橋。2日前に見たばかりなのに、なんだかそれもずいぶん昔の出来事に思える。それほどこのクルーズには濃密な時間が流れていたのだ。

金丸知好（カナマルトモヨシ）

富山県生まれ。早稲田大学在学中に神戸から上海へ「鑿真号」で渡って以来、船旅のおもしろさにはまり、日本国内や韓国・中国・台湾・ロシアなど外国行きのフェリーに乗船すること多数。稚内からフェリーで訪問したサハリンの見聞録「北緯47度の忘れ物」で徳間文庫10周年記念ノンフィクション大賞を獲得し、以後、船旅をベースにした「航海作家」活動に入る。クルーズ客船で五大陸と五つの海洋をめぐる経験を生かし、雑誌「クルーズ」（海事プレス社）で「世界の港町、歴史海道をゆく」を連載。また、単行本「アジアフェリーで出かけよう！」（出版文化社）、「フェリーでGO! オモシロ船旅～日中韓露台」（ユビキタ・スタジオ）の執筆、船旅専門ブログ「航海作家カナマルトモヨシの船旅人生」運営など、船旅に対して情熱的にオモシロ活動中!

船旅専門ブログ「航海作家カナマルトモヨシの船旅人生」
http://rohnin1966.at.webry.info/